2022年（令和4年）
第40号
（12月1日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　澤村悦玄
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　～人さまと、ともに幸せに　六波羅蜜～

京都教会長　中村 憲一郎

今年も残すところ１ヵ月となりました。新型コロナウイルスの猛威は、収まったと思うと再び拡大し、３年目の今年も、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼし続けています。加えて、今年の２月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻により、第３次世界大戦の危機や核兵器の使用までも叫ばれるようになってきました。自然界も人間界も本来は調和がとれ、お互いに持ちつ持たれつのバランスの取れた関係になっているというのですが、何がその調和を乱しているのでしょうか。

こうした緊迫した情勢の中にあって、私たちは、コロナ禍の終息と同時にウクライナ情勢の平和的解決を祈念し、毎日のご供養で真心からの祈りを捧げています。この間には身近な人がコロナに感染したり、その他の病に倒れたり、戦争で犠牲になられたり、事業に行き詰まったり、仕事を失ったり、孤独になったり、亡くなられた方もおられましたが、「即是道場」の精神で、その都度祈願供養や今、ここで、私に何ができるかを真剣に念じつつ、人さまを思いやる実践を積み重ねてまいりました。

会長先生は年頭のご法話で、自己の存在の尊さを知り、さまざまな問題を解決する、乗り越える仏さまと同じ智慧と力を本来具えていることを自覚すると、生き生きした人生を送ることができるとお示しくださいましたが、その証として、毎号の「平安だより」には、皆様から寄せられた生の声（体験）がつづられていました。私はその声に大きな励ましをいただきながら、本年も会員の皆さまといっしょに「心田を耕す」精進ができたと感謝でいっぱいです。まだまだつながれない方も多くおられます。そうした方々とも少しでもつながれるように、家庭を斉え、ご縁を結んだお一人おひとりとの出会いを大切に、人さまの暖かな陽光となれるように日々精進してまいりたいと思います。

さて今月の会長先生の「佼成」のご法話は、「人さまと、ともに幸せに――六波羅蜜」です。今年１年を振り返りながら会長先生は、「苦悩の種である『煩悩』があればこそ、そこから救われたいと願うからこそみんなが救われる真理・法（教え）に出会えたのです。六波羅蜜の教えは、その徳目はどれも、欲や怒りや執着心などの煩悩と表裏一体の実践で、そこには自己中心の心を菩薩のはたらきへと転ずるキーワードがあります。その働きに振り向けるスイッチは『利他』の心です」とお説きくださっています。そしてすでに私たちは朝夕のご供養の三帰依文の中で、普回向の中で「みんなと一緒に幸せになろう」と願い、誓いつつ、仏さまに手を合わせているのですと、その実践の尊さを証明してくださっています。その上で「一人の力ではどうしようもない現実があるとしても、私たち一人ひとりがどう生きるかを模索し、身近にできることに取り組むひたむきな思いが、仏の大きなはたらきと一つになる」と励ましてくださっています。

冒頭に自然界も人間界も本来は調和のとれた存在であることを申し上げましたが、あまりにも現実が悲惨で重苦しく、現状が変わらないことに無力さを感じたり、焦りを感じたり、諦めを感じたりしていましたが、私は会長先生のご法話によって、私たち一人ひとりのささやかながらも、祈りのこもった利他の実践は、必ずや世界に平安をもたらすことができると確信し、明日への希望と元気をいただくことができました。

今年一年、「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそう」実践を、コロナ禍にあっても行じ続け、精進してくださった皆様に心から感謝申し上げ、皆さまとともに「明るく元気に新年を迎えたい」と思います。

合掌

令和４年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/